

平成29年度第2回松島町総合教育会議

2018年2月28日

開催概要

- ・開催日時：平成30年2月22日（木） 午前10時から
- ・場 所：庁舎2階 201会議室
- ・出席者：
 - 教育委員会 内海教育長・瀬野尾教育長職務代理者・佐藤教育委員
鈴木教育委員・本間教育次長・三浦教育課長
若松学校教育班長・小岩主事
 - 町長部局 櫻井町長・亀井総務課長・櫻井総務管理班長

議題

議 題

松島町教育大綱と教育振興基本計画について

議事

開会（櫻井総務管理班長）

定刻より若干早いのですが、ただいまより松島町総合教育会議を開会いたします。始めに櫻井町長より挨拶を申し上げます。

挨拶（櫻井町長）

教育委員の皆様、本日はお忙しい中誠にありがとうございます。本日の総合教育会議でございますけれども、本日の議題は松島町教育大綱と教育振興基本計画についてでありまして、これを策定したときが平成25年であったり平成27年であったりと時間が経過しております。教育振興基本計画は、10年一区切りとしているけれど、5年経過したところで見直すということになっておりますので皆様から意見を伺いまして、実りある総合教育会議になりますことをお願い申し上げまして簡単ではございますが、御挨拶とさせていただきます。

（櫻井総務管理班長）

進行方は、内海教育長が行います。

- ・議題 松島町教育大綱と教育振興基本計画について

（内海教育長）

それでは、よろしく申し上げます。冒頭に町長より説明のありました教育振興基本計画、10年スパンで使っておりました基本計画が、5年目を迎えて骨格を変えないでリニューアルしたことを三浦課長から説明して頂くのと同時に、大綱のほうも今年で大綱が切れるということでもう一度大綱を見直してさらに5年間、それで行くように町の方から提示頂いたのので、それも併せて説明して頂きながら御意見を頂きたいと思っております。早速、松島町教育基本振興計画について三浦課長に説明頂きたいと思っております。

（三浦課長）

それでは、松島町教育基本振興計画の改定について簡単に御説明致します。

表に書いてあるとおり、この基本計画は平成25年3月に策定しました。2頁を御覧下さい。計画期間としまして10年を1期とし平成25年から平成34年度までの計画期間でございます。5年が今年度まで経過ということで5年ごとの見直しの年度となっております。これに伴い、今年度3月ですね、来月改定と言うことで作業を進めておりました。作業の経過を先に説明致します。43頁を御覧下さい。今回改定に当たり、そこにありますように7名の策定委員の方々にご審議をいただき、平委員長の下に審議を重ねて参りました。44頁を御覧下さい。策定委員会は2回行いまして先に1月16日の第2回の策定委員会でこの案を策定しました。その後、教育委員会議に提出し1月26日委員会に議案として提出し、了承を得たという流れであります。本日総合教育会議に提出させて頂きました。今後、3月の定例議会でみなさんにも配布するという予定であります。

それでは最初に戻りまして、先ほど教育長からもありましたけども、4頁以降、大枠の骨子を変えないで、5年前から古くなった図表のデータ関係を修正したということでございます。それに伴って6頁以降の現状と課題等の文言も検討修正を重ねたものであります。

26頁以降の第4章、基本施策、この分が毎年各学校がですね教育計画、基本方針等、「松島の教育」のもとになる部分であります。26頁以降については、幼児教育、学校教育社会教育、生涯教育とそれぞれ到達目標を設定しておりますが、すでに目標を達成している部分があります。その点について現状と目標を、現状に併せて一部変更している部分があります。あとは39頁用語解説の一部修正と見やすさの改正を実施しました。以上であります。

(内海教育長)

ありがとうございます。それでは教育大綱の方でございますが、町の方から提出頂いて、若干変更のあったところは波線を引いております。それについては、新旧併せて見て頂ければ分かると思います。ただし、大綱の運用期間は平成30年度から35年度となっております、この期間は特に規定がございませんので、教育振興基本計画が10年目を迎えるに当たって、ぴたっと合うような、前回の3年間より2年長めの5年間と形で進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。以上町当局に変わってお話しさせて頂きました。簡単ではございますが資料等お渡ししておりますので、ここから意見をお願いします。

(櫻井総務管理班長)

大綱の施行期間ですが、5年間には変わらないのですが30年度から34年度までです。そちらの訂正方お願い致します。

(内海教育長)

訂正が入りましたので、よろしくお願ひします。では計画及び大綱から意見交換をしていきたいと思ひます。

(櫻井町長)

振興計画など三浦課長から言われたのでみんな理解はできているのか。

(三浦課長)

事前に教育委員会議で説明しているので大丈夫です。

(瀬野尾委員)

教育振興基本計画の資料においてですね、例えば7頁に0歳から14歳まで詳しく人数を入れて欲しいと要望して、書いてもらいましたがこれをみますと、全体としては確かに子供たちは減っているんですが、私の方で見ますと、平成29年度1歳児81人というのは、平成28年度は0歳児のところをいたということでありますよね、それをななめに見ていきますと、減っている年齢もあるんですがね、全体に2~3人ずつ増えてるんですね。だから入った学年で、子供たちが外に流出していくのではなく、2~3人でも松島に入っている子供さんがいるのだなということで、色々調整等で良い面が出ているのかなと

ということを感じました。ただ、全体で見ますと、百何十人とか減っているの、全体としては減ってきているのだなと言うことを感じます。

先ほどの変更点の話ですけれども、内容的にそんなに大きく変わっていないというのは承知しているのですが、5番の松島防災学の2頁に書いてあります推進等言うことがですね、前の振興計画でも松島学とか書いてましたが、そこらへんの充実がこれから先、どういう形でされていくのかなということが見えてこない。せっかく昨年11月に全町げての取り組みをしたのに、今後のビジョンがあるのかそこらへんのところがどうかなと感じております。あと、これは町全体での取り組みですよ。

(内海教育長)

去年11月4日にやって、あとの、今年に向けての防災に向けて動き始めていますので、それについて三浦課長より説明よろしくをお願いします。

(三浦課長)

今年度11月5日を学校の出校日にしまして、各学校のシェイクアウト、あるいは避難訓練、あるいは第五小学校においては引渡訓練等しました。その後各学校において、自己評価において、あるいは保護者のアンケート等を集約しました。それをもとに、今月総務課の環境防災班の危機管理監、班長と、学校の校長、防災担当者等で意見交換を実施しました。まだまだ課題があるので、いわゆる学校と地域の連携を今後もっともっと強くして行くにはどうしたらよいか、あるいは子供たちの命を守るために学校の職員だけで無く町ぐるみではどうしたらいいのかということ、学校側からも意見を出して頂いて危機管理監と意見交換をした次第でございます。1回では決まりませんでしたので、来年度の11月4日にむけての、あるいは4日だけでなく、小中学校、幼稚園を含めた防災教育の推進ということで、先日ですね、町内には、防災主幹教諭、安全担当の主幹教諭が2名配置されております、第1層学校、中学校に県教委から派遣されておりますので、今後さらに防災主幹教諭を活かしながら、学校に派遣されている防災主任等と会議を開きながらより良いものにしたいと。昨日については、さらに担当レベルで来年度の防災、今後の防災教育、幼稚園との連携をどうしたらよいかを担当班長が参加をして意見交換をした次第でございます。昨日の話題として、11月4日に地域、学校ができる部分での子供たちの命を守る訓練をどうしたらよいかということで、意見を出し合って話し合いをしたところであります。幼稚園、小学校はまだまだ連携が深まっていない部分がありますので、一緒に避難訓練をする、あるいは一緒に引き渡し訓練をするなどしていかなければならないだろうと。また、あと松島まるごと歴史学等の文化歴史についての総合学習等の深まりは強いのですが、防災学といった場合に横の繋がり、あるいは各学校の防災教育の深まりがまだまだ十分ではありますのでそれは、31年度の課題としてですね取り組んでいきたいなと思っております。

(瀬野尾委員)

学校の取り組みは、いろいろ私も想像が付くのですけれども、この総合会議では町長部局と一緒にと言う趣旨を活かしますと、やはり町ぐるみという組織化ですよ、例えば30年度に地域の方々と、避難所として学校を使った場合にどういう動きをするのかというような具体的な話を地域の方々といつ持つとか、そういうことはもう決まっているのですか。

(三浦課長)

小学校区毎には、第五小学校だと来週の27日に地域の方々と連携会議と言うことで防災だけでなくコミュニティスクール等の連携を鑑みまして実施すると聞いています。なお、各小学校でも防災マニュアルに地域連携会議を開くと設定しておりますので、第二小学校ですと学区が広いので、そのすべての所と連携をしているかということとまだまだ、学校周辺との連携に留まっておりますので、そういう意味では課題があるのだろうと思っ

ています。瀬野尾委員が仰った、避難所の開設等の訓練も課題として取り組んでおりまして、例えば11月4日については、子供たちを地域に戻しまして、あるいは中学生は地域で活躍できるように、その子達が地域で活躍できるような事前指導をしなければならないとも話しており、具体的には地域との避難訓練、避難所の開設訓練をしなければならないのだなど、その辺は30年度の課題だと考えています。

(瀬野尾委員)

やっぱり学校というのは地域の発信基地としてあるというのは分かるのですが、防災訓練は町として考えて頂かないと、全町を巻き込んだ防災訓練とはどうあるべきかというのをせつかく1日設定してやるのでしたら、こういうように使ってみましょうと計画は立てたけど、実際に11月5日に引き取り訓練で、全員が引き取りに来たときに、こういう課題が見えたというのを修正して、実際の災害に役立つように、近づくようなものに持って行くようなところが今年の訓練では、残念ながら見えなかったものですから。これは教育委員会だけでなくて、町全体としての計画と実行、一気に高いところへは行けませんので、今年は計画、実証、検証して地域全体でそういうことを考えていく必要があるなと感じたものです。

(内海教育長)

瀬野尾先生のお話を補足する形にはなるのですが、学校で今年やってみてですね、その反省として地域との関わりが薄かったと。それを踏まえて、防災の在り方を検討していくという形で考えて。ただ、学校を全部休校にするのかあるいは、子供たちを地域に帰すのかという話も出てきましたので。

(櫻井町長)

来年度の防災訓練の内容が固まっていないとは思っただけで、去年は防災の日を設定してそこに合わせたのだけど、今、瀬野尾委員が言った地域、学校との関わりを合わせた防災訓練、それと防災訓練は町でやる場合は0歳児でも何歳でも全体を見て防災訓練を行って、そのあたりの関わりというので接点が欠けているのだと感じただけで、これは地域性がある。例えば、極端なことを言うと高城、海岸、磯崎が難しい。人が大勢居住している地域はいろいろ課題が出てくる。それ以外の行政区に関しては、地域が例えば、地域コミュニティでお祭りであれ何であれやっているのだから、それが防災であってもやる事が変わるだけで、ぱっとできるのだけど。それと松島の場合は、もうひとつは全町あげての防災訓練のほか観光客の避難という課題があるので、それらを整理して環境防災班と防災訓練について打ち合わせしてみます。その回答を、教育委員会の会議等に出せればと思いますので。この件に関しては、総合教育会議だけでなく教育委員にも知っておいてほしいので、教育委員会の時に、町はこうしたい会議にかけて欲しい。3月は定例議会があるから、4月以降に回答するようにしたい。

(内海教育長)

教育委員会議は明日ですので、3月は議会等もありますので、ゆっくりでも大丈夫ですのでよろしく願います。

(瀬野尾委員)

私は、防災訓練を非常に熱心に取り組んでた所から来たので、大丈夫かなと思ってしまう。例えば、今話が出た地域の住民でも広報を見ても自分から訓練に参加しようという気にならなかった。前は、競って参加していたので。あとは、この間の震災の時でも、遠野のような内陸の被害の無かったところは物資面で釜石を支援したのですが、この町の中でも、海岸部以外の住民は津波は関係ないでなく、食糧や物資の面でどういう支援活動ができるだろうかと、そういうことも含めて、町としては一気にできないので、課題のひとつひとつを、これから何年かけてでも作っていかなければならないので。

(櫻井町長)

まもなく震災から7年を迎えるのだが、震災の時のことを思い出せば、松島はそういうことが自然とできたんですね。自分は議会に居たが、回って見たときに桜渡戸地区や幡谷地区ではおにぎりづくりが始まった。これは訓練していなかったが自然にできたと思われるが、これを今度訓練としてやろうとしたときにできるかということが気になる。今後は千年に1回の津波災害で無く頻発化する豪雨等の自然災害に対して、それができる訓練をやっていきたい。「どの訓練が何回やったから良いということはない」と自衛隊の方から何度も聞かされているので、そのあたりも含めて今後検討させて頂きたい。

(内海教育長)

では、防災のほうはこのへんでよろしいでしょうか。それでは次に佐藤委員から。

(佐藤委員)

私の方は、自分が仕事をしていて、学校教育の限界というのを痛感することがあり、すなわち行政の支援があって解決できることが多い。何のことかということ、今、不登校の子が多い中で心の病ですね。これは、大綱の3頁にあります。学校教育の充実というのがありますが、子供の親に心の病というのが見受けられまして、経済支援が必要、自立ができないという、それは学校だけではなかなか支援できない。そのために、不登校になったり学力が伸びなかったり。経済支援というのはされていると思うが、自立支援というのは経済支援だけで無く家庭が自立するために、病休者が就業できるような仕組み作りをですね、していかないといけないのかなというのが1つと、もうひとつはちょっと本題から離れるかも知れませんが「ひきこもり」といわれる子供が松島町にどのくらいいるのかということで、現在どのくらいの引きこもりがいるのかとその辺の調査をしていただけないかと。小中学生から、40代まで、幅広く調査をしてほしい。その人たちが就職できないから、自立できずにいるので、その自立支援、松島町だけではできないなら2市3町でシステム作りをしていかないと。将来的に、若者達が働かない。働かないと、町全体に活気がでない、更には税金にも関わってくるという課題があると思っている訳です。そういう心の病を抱えている保護者、青年達を自立させる支援体制を行政の中に作って頂かないと、不登校児に関わって見ていると難しいなと思う訳です。そういう所の支援を、是非今後行政で検討頂けたらと仕事で感じています。

(内海教育長)

ありがとうございます。町長にこの振興基本計画を見せ不登校の数が14と言ったら、大変驚かれておりました。不登校については、さまざまなケースで学校に来ないということでお伝えしておりましたが、三浦課長の方でひきこもりの数は把握していませんが不登校の詳細を。

(三浦課長)

中学校で13名、小学校は6人が不登校、病気関係で30日以上登校しないのが3名と併せて9名、1月末です。

(内海教育長)

それは引きこもりと同じでは無いと思いますけれど、佐藤委員さんのお話頂いた事例、について、御存じのケース等ございますかね。

(佐藤委員)

今、やっているところというのは、民間で仙台の「わたげ」というところがあります。年齢はいろいろですが、そこで住み込みで自分の自立支援、学習支援しているようです。そこで高校に進学できなかった者を指導して大学に進学させた子がいたり、就労支援はそこでいろいろな企業と協力しながら、最初はいくらかの給料をもらいながら少しずつ働かせるということをして、少しずつ時間を延ばしながら、社会に適用させるということをして、その子はどのようなことに適しているのかを見ながらやっている。そういう施設は、民間でそのようなことをやっているの、その民間の企業を行政で支援する等の方法もあるの

かなと思いますね。

(内海教育長)

こういう民間の施設は沢山ある訳ではないんですね。難しいところがあるのでしょうか。

(櫻井町長)

その施設はどこにあるのか。

(佐藤委員)

遠見塚の古墳の近くだったと思います。通所の人も居る。そこで生活している人もいる。みんな、心の病をもって、不登校・引きこもりになっている子供とかです。住み込みしているのは、他県の方が多ようです。ああいう施設を見学して頂けると良いかもしれません。

(瀬野尾委員)

「松の実」はどこが経営しているのですか？団子をつくったりいろいろやっているのですが。

(櫻井町長)

社会福祉協議会では無い。あそこは社会福祉法人がやっている。あれは「わたげ」とは違う。

(佐藤委員)

違うと思います。自立できるように、社会に復帰できるような支援をになっています。あそこは、特別支援とか障がい者に対する支援をしていると思います。

(内海教育長)

そこ「わたげ」の経営が成り立つのは、なにか支援団体があるのですか。

(佐藤委員)

助成金は頂いているようです。ただ、無料で無く有料で(民間なので)やっているのです。

(瀬野尾委員)

この間、新聞の連載に載ってしまして、関心をもって読んでいたのですが、その方がある程度年齢を経て、中高時代に引きこもっていたことについて、当時は何故引きこもるのかわからなかったが、それが、何年かを経て何故引きこもったかが分かったときに、支援を受けて前に進めると言うことだった。佐藤委員の話では、子供が自分で頑張ろうとしたときに支援する施設が必要では無いかというお話しになりますか。

(佐藤委員)

そういう気持ち(自分でがんばろう)が無い人も引き受けて、前に進めるようにしているようなものが欲しいです。

(内海教育長)

そうだと職員も専門性が高いのですか。

(佐藤委員)

高いですね。最終的には、学習支援することによって自信を持って自立支援に繋がっていきますという話は聞きました。

(櫻井町長)

この間夜間中学を見てきたのだけど、やはり今の父兄が、子供が壁にぶち当たったときに、上手くサポートできるかが大きい。サポートできないでいると自分1人で考えて引きこもってしまうのでは。私は教育長から数字を聞いて、急激に増えたので何かあったのかと思っていた。これは数字を見てどうこういうのではなく、原因を突き止めて解決していくということが必要です。

(内海教育長)

この件は、ここでの話題ということで取り上げたのですが、引きこもりについては何人居て、どういう対策が必要かと検討していくことでよろしいでしょうか。ほかに。

(鈴木委員)

最初の構想や計画を見て、大変苦勞して作成したのだなと思いました。それで、いいなあとと思うのだが、「松島人」って何なんだろうかということが見えない。「松島人」を作る施策が見えない。例えば、松島で生まれ育って、この時代に勉強はどこでもできるが、松島の教育、なんと言ったら良いか、「志教育」というのをやっているのかと。政策が見えない。学校教育に任せっぱなしなんです。夢、志教育というのが。志教育は大事です、町の未来を作る。人が年齢を重ねるにしたがって、どんどん流出して行ってしまいます。遠くに居て松島良いなあとするのは良いが、松島に戻ってきてというのは学校の教育によるのではないかと。私は町の企画と一緒に進めていくべきではないのかと。学校の先生は、やることが多いのでその中で松島人、志教育という時間がとれるのかと。これは、松島のものなので、県の方針ではないので、みんなでベクトルをあわせて、教育だけでなくて町とともに松島の施策を進めていくべきでは。大きく35年に向けて、方針はこれでいいと思っているが、具体的な施策の所で「松島人」のところで、地域の特徴が、一つ欲しいなと。そういう1つ特徴的な教育を、町でやって良いような気がしてならない。県はみんなやりますよ、国もやります。県と国のは最低限協力してやる。それ以外のこと。

何か抽象的すぎて、見えない。そこを真剣に、子供たちの教育に反映させていったら良いのかなと。感想です。そこを取り組んで行きたいなと。

(内海教育長)

「松島人」ということで、マインドの問題なのですが、学校としては学校で、家庭は家庭で、町として具体的に何かやっていく施策ということで。

(鈴木委員)

この間、中学校の弁論大会で素晴らしいのを見た。気仙沼の発表だったが聞いて思ったのは、この子はきっと気仙沼に戻ってくるだろうと感じた。そういう子供達は、少し勉強できなくても、町をこう支えていくと思う。そういう訓練、自分の意見を発信するという訓練も重要だなと思いました。

(内海教育長)

ありがとうございます。基本方針には一般的に抽象的な部分が多いとは思いますが、なにか他の委員さんはありますか。

(瀬野尾委員)

私が驚いたのは町を歩いているとみんな挨拶してくるのですね。前にいたところでは、知り合いで無いとあいさつしてはいけないような雰囲気があって。子供も、大人もですね。松島ってすごいなと思ったのですね。その後、昨年県の教育振興基本計画の策定委員をやらせて頂いたのですが、県としては志教育を一番に掲げているのに、市町村ではそのことを大事に受け止めていないのかと質問したことがあった。少なくとも私は、松島では志教育を感じられなかったのです。松中でも発表会があったんですけど、あれをもって志教育というのは、あまりにもお粗末だったものですから。県でそう言ってる大事なことが、ぜんぜん地域では具体化していないのが現状だという話をしたのですね。ですから今、鈴木委員さんが仰ったことが非常によく分かるのです。志教育を何をもって、松島では志教育としてやっているのかと。一つは私、誰に対しても挨拶をしようというのがそれなのだと、もう一つは、松高に観光科ができて、話をする機会があったのだが、観光科として子供たちがいろいろな商品を開発して、こういうことをやろうと思っても、牡蛎祭りとかでは子供たちを駆り出すけど、夏祭りではテントひとつ張るのに場所代何万円と言われた。ああいうことをされると、子供たちの発表の場が無い。それを言われた。そうしたら、この間松島のいろんなボランティアグループが、県の生涯学習の主催だったと思うのですが、日本遺産ガイド研修というのがありましてその仲間がせっかく観光科があるのに、その子供

たちが観光科たる姿が見えないんだという話をしたら、県の次長さんが、テレビを見る限りは、台湾からのお客さん達をガイドしている姿などが見えているから、それなりのことをやっている自分たちは思っていたのだけど心配されていた。町でそういうことを応援するというベクトルが大事だと思いました。

(鈴木委員)

会津の子供たちは10の掟を暗記させられる。良い悪いは別にして、あれは良い教育だと思うのです。子供たちに誇りを持たせる。他にない価値、辛いときにあの言葉を思い出すというような。今年、横浜の孫が来たときに有名な詩をぺらぺらと言うのですよ。暗記させるのでしょうか。今は分からなくても、いつか理解するのでしょうか。そういう風に、何かの時に思い出すような、そういうことをしていきたい。町のビジョンを思い出させるようなことを教えられないかなと。

(瀬野尾委員)

暗記することは大事だと私も思うのですが、今松島でやっているのは「松島学」、全小学校の子どもたちが瑞巖寺とか雄島、手樽干拓とかを回って、ボランティアの話聞いてくる。もうひとつは座禅体験をしている。あの座禅体験は、絶対心に残るだろうと思う。今の松島学が、お経でも何でも暗記するということも、松島学もいずれは子供たちの心を耕すことになると思うのですね。

(内海教育等)

志教育というのを取り上げていこうと瀬野尾委員から頂いたのですが、目玉になるような何かを考えていくというのは同じなんでしょうけど。奇をてらっていくのも良いのですが、挨拶とかは地味なんですけど大事だと。暗記なども、市町村によっては名言とか暗記させる活動もあるのですが、町が少し関わっていただけとありがたいという話ですかね。

(瀬野尾委員)

鈴木委員のおっしゃった、志教育に関わると思ったんですが、引力、自分たちで何でもかんでも役場にやってくれというのは限界もあるのだから、その気持ちが、やろうよという気持ちはあるのですが、その時にこのハードルをどうやったら乗り越えられるのかと、その時にちょっとしたことを町が後押しして、最終的には町を頼りにするのでは無いということも言われるのですが、町としてはそういうものを支えきれないもの何でしょうか。

(櫻井町長)

結論的に言えば、子供たちは何か自信を持つということが大事なのだけど、例えば鈴木委員の言う発表するのかなのだけど、苦手な子供もいるので。去年久しぶりに芭蕉祭で町内の小中学校から俳句を集めたら50句くらいは集まったのですね。松島にこういう子供達がいたのかということで、その中から何点かは町の広報に載せて、披露したのだけど、そういったことも良い影響があれば今後とも継続していくとか。例えば上竹谷でやってくる踊りや太鼓なども、発表しているときは子供たちがいきいきしているので、そういった裾野を広げていくことも大事だと。それから、松島高等学校の話になったのですが、磯島の牡蛎祭りではブースを出してもらって、ダンスも披露してもらったのだけど。松島高等学校は、町との関わりはすごく持ってもらっている。去年は学祭にお邪魔したときにずいぶん生徒に声を掛けられたのが嬉しかった。そういったことで何かあれば今後とも支援していく。

(内海教育長)

志教育に関しては、町と関わりながら進めていくと。あと、最期何かもうひとつくらい御意見等あれば。

(佐藤委員)

これも3頁学校教育という所ですね。ICTの設備の充実ということなんですけど、この

辺はどのくらいまで導入されているのですか。

(三浦課長)

現在導入されているレベルなのですが、各学校コンピューターの更新時期もあるのですが、生徒が使うコンピュータ、先生方が使うコンピュータということで5年契約で更新時期があります。今年度については、第一小学校のコンピューターを更新し、来年度については第二小学校の予定であります。現在の整備状況ですけどコンピューター室が、一クラス分の生徒が一気に使える状況で、あるいはタブレットが各学校、松中19台で、インターネットに接続しながら使える状態です。あと各小学校にも数台タブレットが入っております。ただ、普通教室には無線等が整備されていないので、先生方は大型テレビが数台各学校にありますので、予めダウンロードしたものを使用してもらっている。本町ではまだデジタル教科書等の導入も進んではおりませんので、そういうことではICT等を活用した学習指導というのはこれからかなと。来年度計画しているのが、テレビ回線のアンテナ線を使ってインターネットを使いたい時にアンテナ線からネットに接続して、ネットを利用した授業ができるようにすることを計画しています。国の指針では各教室に1台大型テレビあるいは、有線LAN又はwi-fi環境の整備となっておりますが、今のところは少しずつ進めている状況であります。先生方の公務多忙化に対するICT化については、今年度については第一小学校の学習指導要録をシステム化できれば通信票もシステム化して、先生方の時間を作りたいと思っております。

(佐藤委員)

私思うにはですね、ICT使っている学校と、使っていない学校では、もしかしたら相当学力差が出てくるのでは無いかとおもっています。これは凄い効果があると思います。私も、OHPやテレビを使いながら授業をしてきたのですがICTには敵わないなど、凄く感じています。是非、ICTの需要を見据えて少しずつでも進めていってもらえればと思います。

(内海教育長)

これについてはお金がかかることですから順次整備していくと。時間も押してきましたので、何かありますか。

(瀬野尾委員)

とりたてて話題にはならなかったのですが、この学校教育の3番なんですが、地域文化の継承と創造、先ほどの志教育と関連するのですが、その次の生涯学習の推進という所で、これからこの辺りのところが町として重要視して良い形になるように、具体的施策になるようにということで、生涯学習の推進で力をいれて欲しい。

(内海教育長)

そこの部分を重視して頂きたいという申出ということで、今日の教育総合会議の話題を確認して終了したいと思います。

1. 町の防災の防災について
2. 地域との連携について
3. 自立支援の在り方について
4. 松島人としての志の在り方
5. ICTについて
6. 文化の継承

文化の継承については今回取り上げられませんでした。生涯学習において重要であるということでした。それでは事務局へお返しします。

(櫻井総務管理班長)

御意見ありがとうございました。大綱と基本計画と、方向性が同様であるということで、こちらの見直しの年度の方をすりあわせて、基本計画の中に大綱を盛り込んだ形にしてしまっってはどうかと考えております。

本日は約1時間半おつかれさまでした。今後、来年度の教育総合会議の日程については、年2回ということで調整を図っていきたいと思います。本日はお疲れ様でした。